

2019年2月刊行予定

フランコフォンの世界—コーパスが明かすフランス語の多様性—

Les variétés du français parlé dans l'espace francophone. Ressources pour l'enseignement 日本語版

Sylvain DETEY, Jacques DURAND, Bernard LAKS, Chantal LYCHE 編

川口裕司 矢頭典枝 秋廣尚恵 杉山香織 日本語版編

A5判 232ページ

本体 3,600円＋税（予）

ISBN 978-4-385-36146-8

世界にひろがるフランス語への扉を開く。

PFCプロジェクト*の研究成果をまとめた1冊を

日本の学習者・語学教師向けにアレンジした日本語版。

記述的な視点から、さまざまなフランス語を音声つきで解説。

フランス語の多様性を見渡す最新の書。

*PFC (Phonologie du Français Contemporain) プロジェクトとは

音声コーパスを通じて現代フランス語の音韻論を構築するための研究プロジェクトです。



WEBで世界のフランス語が聞ける！（2019年2月上旬開設予定）

目次

第I部 話しことばのフランス語

第1章 話しことばを記述するための言語学的知識

「言語を記述する」と「言語を規定する」／書きことばと話しことば／言語変異とレジスター／記述のレベル

第2章 話しことばのフランス語の変種

はじめに／PFCプロジェクト／PFCフランス語教育プロジェクト

第3章 社会的音声変異の例示

はじめに／地理的変異と様々な音韻体系／年齢による変異／話し方への注意度による変異／社会的位置づけによる変異

第II部 北フランス

第1章 参照フランス語(FR)：概略

規範の問題：その歴史／母音体系／子音体系／シュワ／リエゾン／韻律／結論：FRとFLE

第2章 参照フランス語(FR)の話し手

FRの例／FRを例示するためのアプローチ／実験方法／結論

第3章 パリの上流階級の女性：中等教育について

第4章 ロアンヌ(ロワール県)：1954年入隊組のモロッコ南部旅行について

第5章 マグラン(オート・サヴォワ県)：以前の生活について

第III部 南フランス

第1章 南仏のフランス語：概略

はじめに／統語的・語彙的観点／音声学・音韻論の側面

第2章 ドゥゼンス(オード県)：2つの大戦の思い出について

第3章 マルセイユ(ブシュ・デュ・ローヌ県)：船の料理人について

第IV部 ベルギー

第1章 ベルギーのフランス語：概略

歴史・政治的状況／訛りの多様性とベルギー内における規範の存在／ベルギーにおける話しことばのフランス語の多様性を示す例

第2章 ジャンプルー(ナミュール州)：性格の異なる2人の子どもについて

第3章 イヴォ・ラメ(リエージュ州)：大病を患った後の生活について

第4章 モレンバーク・サン・ジャン(ブリュッセル)：子どものお小遣いについて

第V部 スイス

第1章 スイスのフランス語：概略

地理言語学的状況／スイスロマンドにおける話しことばのフランス語の特徴／言語的不安／結論

第2章 グラン(ヴォー州)：スイス文化について

第3章 ヴェラス(ヴァレ州)：木工細工について

第VI部 アフリカと海外県・海外領域圏(DROM)

第1章 アフリカと海外県・海外領域圏のフランス語：概略

はじめに／植民地におけるフランス語定着の歴史／アフリカとDROMにおけるフランス語の現状／収録音声

第2章 アビジャン(コートジボワール)：1960年代の波乱に富んだ学校生活について

第3章 イレ・ア・コルド(レユニオン島)：電話と道路の登場について

第VII部 北アメリカのフランス語

第1章 北アメリカのフランス語：概略

地理言語学的状況／主な構造的特徴

第2章 ケベック・シティ(ケベック州, カナダ)：若者にとっての宗教について

第3章 ベル・リヴァー(オンタリオ州, カナダ)：少数派住民におけるフランス語の継承について

本文見本



第I部では、言語調査法やフランス語をめぐる諸問題を概観。

第II部から第VII部のはじめの1章は地域ごとに言語の社会的背景・言語特徴を解説。



実際の会話を対訳・注釈つきで紹介。音声は無料ウェブサービスで。

「日本語版はじめに」より

一旦教室に入り、フランス語を学習し始めると、1つのフランス語という幻想、あるいは、理想が頭の中にどっしりと居座ってしまう。学習者と教師はともに、まるで魔法にかかったかのように、フランス語に多様性があることをすっかり忘れて、ただ1つの規範的なフランス語を教え・学ぶことに没頭するのである。本書の読者は、「やはりフランス語も1つではなかったのだ」という、至極当然とも思える事実を再確認し、同じことはどんな言語についてもいえると気づくであろう。

本書に出てくるキーワード

社会言語学／FLE／音声・音韻／形態論／語彙論／統語論／正音学／シュワー／リエゾン／前方の/R/音・後方の/R/音／母音対立の弱化（/a/～/ɑ/, /ɛ/～/e/, etc.）／無音のh／位置の法則／韻律・プロソディー／二重母音／長母音化／子音脱落／音素配列／類推／コード・スイッチング／移民のくさば／クレオール言語／ダイグロシア／新語／翻訳借用／造語／省略形／借用語／逆さくさば verlan/septante, huitante, nonante／フランコ・プロヴァンス語／オック語／オイル語／ワロン語／フランコフォニー／フランコフォン／ミチフ・フランス語／アカディヤ ... etc.